

みずほインベストメントコンファレンス：質疑応答の概要

Q: 7月に発表された日銀金融緩和政策修正の影響は

A: 当社への直接的な影響は軽微であると考えている。

イールドカーブコントロールの柔軟化については、10年国債の金利変動幅も0.1%程度に留まり、マーケットの反応も限定的なので大きな影響は無い見込み。また、当社傘下2行の日銀当座預金にマイナス金利の付利対象が無いことを勘案すると、今次政策金利残高の減少についても、大きな影響は無い見込み。

Q: 昨年12月のバーゼル3最終合意を踏まえ、資本政策に変更はあるか

A: 新規制・完全適用ベースのCET1比率は、その他有価証券評価差額金を除くベースでも18/3末で規制水準を上回る8%前半を確保している。今年度の配当については、現行株主還元方針を維持する方針。新規制を踏まえた資本政策については、戦略面・収益計画と併せて、次期中計において今後議論を具体化させる方針。

以上